

【基調講演（要約）】

1. 【工作機械から見る 今後の技術進化と産業を取り巻く変化】

◆工作機械は、自動車のパーツから体内に埋め込む医療機器の製造など様々な産業分野で使用されている。そのため、現在では、いかに早くその機械の性能を向上させるかという点で競争が激化している。現在、海外の企業と繋がることのできる環境があるため、奈良の企業においても、自社から海外へ繋がるようとするその姿勢が重要である。

◆各業界に技術革新の波は今後も到来する。その時、波に乗ることが出来るどうか、また、いわゆる「棚ぼた」のチャンスであっても、どの棚からぼたもちが来るか予測して目を向けておくことが経営者には求められる。

◆これからの産業では、「EV化（広義での電気エネルギー化）」「AI化」「高齢化」が、キーワードとなる。

「EV化」では、車を例にするとエンジンやクランクなどのパーツが2040年までに無くなると言われている。一方で、車体などの制作では引き続き型を変え、工作機器は使用され続ける。そのため、機械の開発は今後も必要とされる。

「AI化」では、より高度な性能や複雑な動きが製品に求められるため、内蔵するセンサーやメモリなどは今後、10倍から100倍程必要となると予想されている。その需要に応える必要がある。

「高齢化」では、今年、誕生した人は100年生きると言われているが、「健康年齢（健康に活動できる年齢）」を引き上げることが課題となる。その際に、義手などの医療機器が重要となると予想される。今、「あのスポーツ選手が履くランニングシューズが欲しい。」と言うように、20年程すると、「あの選手モデルの義手が欲しい」などと言う時代が来る可能性は高い。

また、「シェアリング（中小企業間での技術連携）」により、中小企業がより建設的になること「5軸化（フレキシブルな対応）」「自動化」「複合化」により、設備面で生産性を上げることも重要である。

2. 【これからの経営者に期待されることとは】

- ◆（DMG 森精機 株式会社の拠点となるドイツの国民性を例示し）ドイツは「細かい点より全体を見る」ため、細部に目が向きづらい傾向がある。一方で日本は「全体より細かい点を見る」反面、全体に視野が向かないことが多い。ここから「異文化への理解」「ダイバーシティ（多様性）」が重要であると考え。異文化を理解し、個々の能力を引き出していくことが一番重要ではないだろうか。

また、最近、創業者にスポットが当たることが多く、創業者の精神を大切にす風潮もあるが、経営者による経営で変化に対応し企業を守って行くことも大事であると考えている。

これからの産業分類は、従来の「第一次/第二次/第三次」という分類から、「移動/知識/健康/衣食住」という分類に変化していく。例えば、社員教育を効率的に行えるそのメニューは商売になる。

- ◆最後に、10年/100計画といった長期計画で考えること。長期スパンで見ると、技術の進化などは予測が立てやすく、新たな視点の獲得に繋がる。

以上のことが、これからの経営者には必要であると考えている。